



Mois de la critique

Nouveaux rendez-vous du cinéma français

映画批評月間

フランス映画の現在 2025

10/18 (土) — 10/24 (金) ナゴヤキネマ・ノイ

**カンヌ映画祭が
選んだ傑作！**

**パトリシア・マズイ
監督特集**

**知られざるヌーヴェル・ヴァーグ
リュック・ムレ特集**



JAPAN
COMMUNITY
CINEMA
CENTER



CNC



JAIHO

主催 一般社団法人コミュニティネマセンター ナゴヤキネマ・ノイ
企画協力 アンスティチュ・フランセ日本 助成 アンスティチュ・フランセパリ本部、ユニフランス
アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム オフィシャル・パートナー CNC、笹川日仏財団
特別協力 JAIHO 協力 プンクテ フィルム提供及び協力 レ・フィルム・デュ・ロサンジュ、MK2

<http://jc3.jp/mdlc2025/>

日本で上映される機会のないフランスの最新作、あるいは隠れた名作を紹介する特集「映画批評月間〜フランス映画の現在」。

2025年は、パトリシア・マズィ監督の初長編作『走り来る男』と最新作『ボルドーに囚われた女』、カンヌ国際映画祭をはじめとする映画祭や批評家たちから高く評価された日本未公開の作品、また「知られざるヌーヴェル・ヴァーグの作家」リュック・ムレの作品を上映します。

カンヌ映画祭が選んだ傑作！



歓喜
Le Ravissement d'Iris Kaltenback
[フランス/2023年/97分/カラー]
監督:イリス・カルテンバック
出演:アフシア・エルジ、アレクシ・マナンティ、ニナ・ミュリス
第76回カンヌ国際映画祭批評家週間出品

©DR

仕事熱心な助産師のリディアは恋愛で破局を迎えていた。同じ頃、親友のサロメが妊娠、共に出産までのときを過ごす。難産を乗り越えて新生児を取り上げ、名付け親となり、育児にも積極的に協力する。そんなある日、かつて一夜を過ごしたミロスと再会、孤独なリディアの小さな嘘はやがて人生を賭けた大きな事件へ広がっていく。



ジムの物語
Le Roman de Jim d'Arnaud et Jean-Marie Larrieu
[フランス/2024年/101分/カラー]
監督:アルノー&ジャン=マリー=ラリユー
出演:カリム・ルクルー、レティシア・ドッジュ、サラ・ジロドー、ベルトラン・ブラン
第77回カンヌ国際映画祭カンヌ・プレミア出品
カリム・ルクルー 第50回セザール主演男優賞受賞

©DR

ジュラ山脈に囲まれた街サン・クロードで、心優しい青年エメリックはかつての仕事仲間フロランスと再会する。妊娠4月のフロランスと暮らすようになったエメリックは、生まれてきたジムを自分の子のように育て、ふたりの間には強い絆が生まれる。しかし、ある日ふたりの前に実の父親クリストフが現れる。それはメロドラマの始まり、そして父親としての放浪と冒険の旅の始まりであった。

パトリシア・マズィ監督特集 Focus Patricia MAZUY

パトリシア・マズィは、フランス映画の中でも、ユニークで力強いスタイルを確立している。アメリカ滞在中に出会ったアニエス・ヴァルダの庇護のもと、最初の短編をつくり、ヴァルダの最高傑作と評される『冬の旅』(1985)で編集を担当する。初長編監督作『走り来る男』以降、マズィは、激しい感情、あるいは断固たる決意をひめたヒロインを主人公としている。フォードとカーペンターというアメリカ映画の偉大なるふたりのジョンをこよなく敬愛し、広い空間と独特なロケーションを好み、階級闘争や、馬や牛といった動物への情熱、自然との関係を描きながら、彼女の映画は人間の紆余曲折する運命に光を当て続けている。最新作『ボルドーに囚われた女』ではイザベル・ユペールとアフシア・エルジ、ふたりの偉大な女優が演じる世代、階層の異なる女性間の友情、テンション、サスペンスが見事に描かれている。



©DR

走り来る男 **Peaux de vaches** C

[フランス/1988年/87分/カラー]
出演:ジャン=フランソワ・ステヴナン、サンドリーヌ・ボネール、ジャック・スピエセル
1989年カンヌ国際映画祭ある視点部門出品作品

北フランスのある田舎町、ジェラールは兄とともに酩酊し、農場に火事を起こしてしまい、たまたまそこにいた浮浪者が命を落としてしまう。10年後、刑務所から出所した兄は、美しいアニエスと結婚し、娘ができ、あらたに農場を持つジェラールのもとに戻ってくる。彼は復讐を果たしに戻ってきたのだろうか…。撮影はヌーヴェルヴァーグを支えた名匠ラウル・クタール。



©DR

ボルドーに囚われた女 **La Prisonnière de Bordeaux** D

[フランス/2024年/108分/カラー]
出演:イザベル・ユペール、アフシア・エルジ、マーニュ・ハヴァード・ブレック
カンヌ国際映画祭監督週間出品

ボルドーのある屋敷に一人で暮らすアルマと、郊外に住む若い母親ミナは、同じ刑務所に留置されている夫の不在を中心に生活を組み立てていた。夫たちの面会に訪れたとき、二人の女性は出会い、波乱に満ちた、不可能な友情を育むことになる…。

知られざるヌーヴェル・ヴァーグ:リュック・ムレ特集 Rétrospective Luc MOULLET

「リュック・ムレは、ブニュエルとタチの両者を継承するおそらく唯一の存在だ」——ジャン=マリー=ストロブ (映画作家)

ヌーヴェル・ヴァーグ唯一のバーレスク映画作家であり、フランスをはじめ世界的にカルト的な人気を誇るリュック・ムレ。コメディ、冒険活劇、西部劇、日記、ロードムービー、犯罪映画、そしてカップル、地理、文学作品を題材にした作品など、あらゆるフォーマット、あらゆるジャンルで38本の映画を生んでいる。

ブリジットとブリジット **Brigitte et Brigitte** E

[フランス/1966年/75分/モノクロ] 出演:フランソワーズ・ヴァテル、コレット・デコンブ
ピレネー出身の女の子とアルプス出身の女の子が上京したパリで偶然出会う。同じ名前を持つふたりは意気投合し、一緒に大学生活を満喫しようとするのだが…。ムレは首都に到着した瞬間から、自分の生い立ちを忘れ、見知らぬ世界で受け入れられるために規範に従わなければならない若者たちを観察する。フラー、ロメール、ジャブロルらが友情出演。ゴダールに「真に革命的な映画」と讃えられ、イェール映画祭で審査員特別賞を受賞した。

黒い大地 **Terres noires** E

[フランス/1961/19分/カラー]
道路がなく、ほとんど消滅しようとしているようなふたつの村、ピレネー山脈のマンテとアルプスのマリオーを探索する。題材の深刻さと短編映画の遊び心との間に楽しいコントラストを生み出している。

ビリー・ザ・キッドの冒険 **Une Aventure de Billy le Kid (A Girl Is a Gun)** F

[フランス/1971年/78分/カラー] 出演:ジャン=ピエール・レオー、ラジセル・ケステルベール
ひとりでウェルズ・ファーゴの駅馬車を襲ったビリーは戦利品を運ぶのに苦労する。そんな時、ビリーはアンと出会う…。ホークスを進んで参照しながら、砂漠、断崖、山道を舞台に、少人数のクルーとわずか6日で唯一無二のシュールな西部劇を撮り上げた。主人公を演じるJ=P・レオーは、この多義的な側面を持つキャラクターを演じることで、それまでの役やイメージから離れ、俳優としての新たな可能性を示している。編集はジャン・ユスターシュ。

ウニの陰謀 **La Cabale des oursins** F

[フランス/1990/17分/カラー]
北フランスの石灰鉱山跡に残る「ボタ山」が、コロラド州のグランドキャニオンやエジプトのピラミッドと同じように、観光名所とみなされたらどうだろう。地理をこよなく愛するムレがフランスを旅する。

10/18(土)~10/24(金) (入替制) ※10/21(火)は休館です。

	10/18(土)	10/19(日)	10/20(月)	10/22(水)	10/23(木)	10/24(金)
17:40	D	B	A	F	C	E
	F 19:40	C 19:40	E 19:30	D 19:30	B 19:20	A 19:30

【入場料】 (1プログラム)
当日券 一般1800円 大学生1400円 シニア1300円
障がい者1100円 ペア割引は1名様1400円

ナゴヤキネマ・ノイ
NAGOYAKINEMA NOU
名古屋市中区栄5-1-13 栄ビル5F
TEL. 052-734-7467
https://nkn-neu.com

